
K I Z U N A

猪口零斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

K I Z U N A

【Nコード】

N 8 1 4 7 A

【作者名】

猪口零斗

【あらすじ】

ガンガン Gファンで連載されていた「刻の大地」のカイの想い。ややシリアスめ。俺にはないものそれは・・・

幼い頃

オレは勇者と呼ばれる少年と初めて出逢った

彼は自分の妹を紹介してくれた

素直で元気ないい子だった

一国の王子に魔術所を届けたこともあった
幼い顔に拒絶の瞳が悲しい王子だった

勇者が死に

俺は勇者の言葉の答えを探すため旅に出た

旅の途中

飴玉を落とした表情豊かな少年に出逢った

少年は赤紫の髪を持ったダークエルフを探していた
赤い瞳が印象的なダークエルフだった

それから勇者の妹と再会した

何かが彼女を変えていた

不思議な雰囲気を持った忍とも出逢った
何故か彼といると心が楽しくなる

K I Z U N A

二人と旅を始めて何ヶ月がたったのだろうか。

ふと、木の根元で戯れる二人の連れを見てそう思った。

一人は黒髪黒目の少年　十六夜　オレの亡友にとても似てると思
った。

もう一人は赤紫の髪と赤い瞳を持ったダークエルフ　ジェンド
鋼の硬さのような強さを持った女性だ。

二人は正反対のようでとてもよく似ている。

知ってた？　十六夜、お前が時々見せる有無を言わせない強い表
情をするとき、お前の瞳はジェンドの強い瞳によく似るんだ。

知ってた？　ジェンド、お前が十六夜に見せるやさしい表情は十
六夜が見せる表情によく似るんだ。

正反対だからこそ、惹かれ、魅せられ、求め合う。俺が決して入
り込む事のできない絆。

絆で思い出した少女　イリア　俺の亡友の妹。三年前アドビスの
王子　シオン　と旅をしたらしい。

そこで何があったか詳しくは知らないが、彼女は初めての人間の
友達つまりシオンを失った。それからは笑顔が妙に悲しい。

俺はそれを見て時々シオンが羨ましくなる。シオンとイリアの間
にある死でもってさえ切れない絆が羨ましくなる。

俺が死んだら、十六夜とジェンドはこんな風に悲しんでくれるだ
ろうか・・・？

なあ、なあ亡き俺の親友　ザード　よ。俺は知っている。俺とお
前は親友だったケドお前の中で俺は一番じゃない。

なあ、ザード俺にも彼らのような絆を持った相手はいるのだろう
か。

「イ？！　カイ？！」

気がつけば、俺の名前を呼びながら涙眼でこっちを見てくる十六
夜の瞳があった。

「どうしたの？　ずっと呼んでも気づかないから・・・僕、何かあ
ったのかと思って・・・っ」

「ふん。このアホ男なら大岩につぶされようがあっけらかんとして

るんだ。問題ナイ」

そうだよな。たとえ俺に絆がないとしたって、こいつらだけで旅をさせるのは危険すぎるよな。

だから、こいつらがちゃんと自立できるまで、俺がいたっていいはずだよな。

ずっと思守っていいこう。親友の面影を持ったやさしい少年を、鋼の強さを持つ独りぼっちのダークエルフを。

そしてこいつらにヒントを貰ったっていいよな。

人と魔物が共存できる世界 の答えを

「全く、しっかりしろアホ男。道案内はどうした。てめーが道案内をするというから任せてるんだ。さっさとしろ」

「僕ね、カイが元気ないと僕もつられてフニョってなっちゃうの、だからね、元気出して」

そうだな、十六夜、ジエンド。

しばらくは俺が保護者になるか。

（後書き）

これはですね、カイは無意識のうちに自分がここにいていいのだからとか考えてるんじゃないかなー？とか思ってた書いたものなんですよ。

で伝えたかったのが、ジェンドと十六夜が惹かれる絆だったら、カイが持つてるのは見守る絆と思うんです。カイが見守ってくれるから、中立の位置にいるから、十六夜とジェンドは旅ができるんだ！と。

全然伝わってないですねー。ファンフィクションは難しいわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8147a/>

K I Z U N A

2010年10月28日08時29分発行